

市内4高校の生徒有志が、地域の将来ビジョン「おもしろい町」の3本柱で、公共交通機関の利便性向上など高校生の実体験に基づく6項目を提言している。（松山定道）

市の未来へ高校生提言



柴田市長（左）らに提言を発表する高校生代表たち

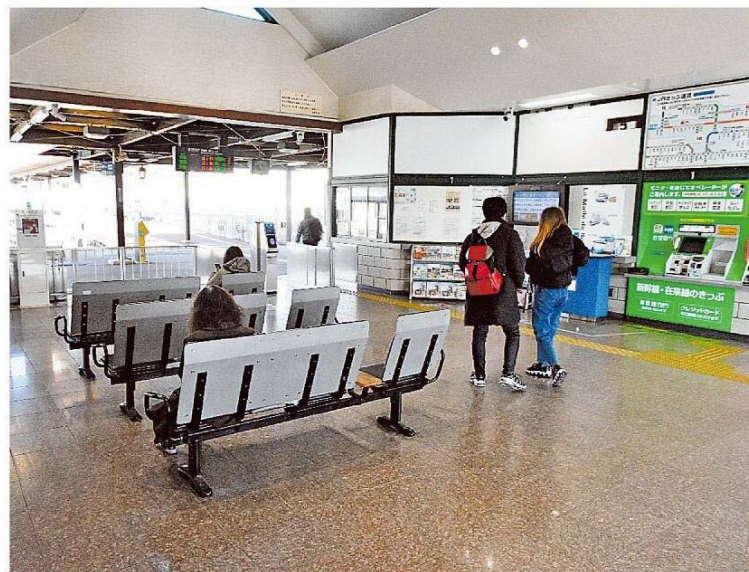
おもしろい町

生きがいを感じる町

住みやすい町

住みやすさは、公共
交通機関の便の良さと
安心安全に着目した。
電車・バスの便が少な
いため、通学時に座れ
ないだけでなく、下校
時は30分以上待つこと
が多いと指摘。増便を
求めるとともに、待ち
時間を有効利用できる
よう、駅に宿題ができ
る机を設置したり、リ
ラックスできる音楽を
流したり、行政と協働
ら、交流の場やつなが
りを持つ場を創出する
べきだと主張。スポー
ツや趣味、イベントな
ど市民が活躍できる場
やリラックスできる場
所、学べる場所をつく
ることも重要とする。

おもしろい町には、
文化芸術、スポーツを
楽しむ施設の充実と併
せ、港フェスティバル、
玉野まつり、花火大会
といった「ワクワクす
るような、市民の活気
が満ちてくるようなイ
ベントの開催・復活」



椅子はあっても机がないため待ち時間に宿題
などができなと指摘されたJR宇野駅

市長に6項目 公共交通利便性など

を挙げ、高校生も当日の
手伝いや企画立案に関わ
りたいと望む。

12日に産業振興ビルで
発表会があり、4校を代
表して玉野高2年藤井彩
乃さん(17)、光南高1年
二木倭さん(16)、備南高
2年砂田美結さん(18)、
玉野商工高3年阿波加汰
嘉さん(18)が参加。柴田
義朗市長、妹尾均教育長
に内容を説明し、提言書
を手渡した。

「住みやすい町」を取り
まとめた藤井さんは「電
車の待ち時間の問題は高
齢者と話しても同じ思い
だった。少しでも改善に
つながれば」と話した。

柴田市長は「高校生の
実感に基づく提言は説得
力がある。すぐ実現でき
ることばかりではない
が、心に留めて行政運営
に当たりたい」と述べた。

高校生提言事業は中間
支援組織・玉野SDGs
みらいづくりセンターが
主催。4校の生徒17人が
昨年11月からさまざまな
立場の市民と語り合うワ
ークショップなどを重
ね、取りまとめた。